



## 編集後記

ことなく政が行われるべく、起こされるはずの会議、つまり国会は真摯に国民の想いを受け止める場となっているだろうか。

なんでも経済と数値に置き換え、心ない罵詈雑言が飛び交う議論の場となつてはいまいか。

■……本誌、大中主幹のお導きで今号より伝統ある月刊公論の編集長を仰せつかった。在野の無法者がいきなり本丸の家老に収まった体で、正直なところかなり編集長の席に納まる我が腎部がむず痒いのも事実である。

本誌の原点とも云える「五箇条の御誓文」の冒頭には「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ」と謳われている。謂わば日本民主主義の原点である。翻つて今の世相を見れば、果たしてこの原点は守られているだろうか。

うかは保証の限りではない。大衆のための娯楽とは、低俗で子供に見せたくないものではなく、誰が見ても安心なものであるべきである。それこそ討論番組やニュース番組において子供に見せたくないオトナのシーンが映し出されるようでは甚だ困るのだ。

■……「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ」とは、つまりは民主主義社会における基本的なルールのことではあるまいか。国の行く末を議論する国会の場であれ、学校における生徒会であれ、町内会の会議であれ、そして家庭内での会話であれ、それぞれの人々の持つ意見が余すところなく披瀝され、それについてお互いがきちんと納得した上で方向性が示され、議決が行われるのが民主主義の鉄則である。

■……昨今のテレビ等における状況も似たような傾向があるのではないだろうか。出演者がタレントの場合であれ政治家の場合であれ、一度に発言をして視聴者が聞き取りにくいシーンが散見される。時には、発言している他の出演者の声を遮るように大きな声で相手を威圧するようなこともある。時間に制限があるのはわからなくもないが、きちんと相手の話を聞き、理解納得した上で賛成なり反対なりをすれば良いと思うのだが、往々にして酔っぱらいの喧嘩のように「声の大きいほうが勝ち」という有様になっている。

テレビのようなメディアは、老若男女が視聴できるわけで、あまり子供に見せたくないような状況になると、せっかくな興味のある話題でもスイッチを切るか、ほかのチャンネルに切り替えるしかなくなる。しかし困ったことに、切り替えた先も番組内容が今のものよりましかと

これからの広く会議ヲ興シ、読者の皆さまに役立つ情報と提言をして行きたいと願う。(溪)

月刊公論 MONTHLY KōRON

3月号 第51巻3号

平成30年3月1日発行 毎月20日発売  
本体価格848円(税別) 送料86円

発行人 大中吉一 編集人 林 溪清  
発行所 株式会社財界通信社  
〒160-0008 東京都新宿区三栄町25ポナフラービル  
TEL.03-5379-5611(代)、FAX.03-5379-5616  
印刷所 株式会社廣濟堂  
取次店 日本出版販売/大阪屋栗田

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。  
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。